

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク

IFPat International Farmers Participation Technical Network

モロッコの研修員達と
(帰国時)

イフパットだより

～農民参加なくして農業なし～

NPO便り第3号に寄せて:

第3号の「イフパットだより」お届けいたします。今後も継続して本紙を通してニュースレターとしてNPO活動の様子をお伝えします。

*タイ、チェンマイ大学工学部に客員教授として活躍されている我がNPO会長伊藤信孝先生がタマサート大学、東アジア研究所所長ソムチャイ先生と相互協力に関する“覚え書き”を締結しました。ご報告します。

*ブータン派遣、櫻井文海氏から原稿をいただきました。ブータンの状況を報告します
編集文責: 辻本壽之

1. はじめに

「イフパットだより」第3号をお送りいたします。昨年、JICA筑波で作りました「技術リソースパッケージ」(教材ビデオ)「唐箕の作り方と使い方」は完成し好評を得ました。JICA筑波及びJICA・HPにて検索できるのではないかと思います。この度の唐箕製作ビデオは、製作過程に重点を置いたものになっています。

現在タイ、チェンマイ大学で客員教授として活躍されております会長伊藤

信孝のご尽力により本NPOとタマサート大学との相互協力に関する「覚え書き」を8月4日に締結しました。今後の活動に弾みがついたと思っています。また、9月にトルコにおいて国際ワークショップを開催しました。現地の新聞にも大々的に報じられ多くの成果を得ました。本号はまた第2号に続ブータンに派遣されている櫻井文海氏からの原稿を記載します。

2. モロッコ国別研修“農業機械改良技術コース”

平成20年度国別研修「モロッコ国農業機械改良技術」コースを担当しました。技術研修期間は平成20年6月24日から平成20年8月22日までJICA筑波で実施しました。研修員は4名。最終学歴は4名共、ハッサンII世農獣医大学卒である。モロッコ、ハッサンII世農獣医大学はモロッコにおける唯一の農業総合大学であり、本大学には農業機械学部がある。この度の研修員は、昨年同様全員本大学卒業生であり、その内の一名は教授である。モロッコでは、その他に農業大学校、農業研究所及び農業高校、農業機械の職業訓練校があるが全てモロッコ国農業漁業省管轄下にあり、4名ともモロッコ農業漁業省職員である。Dr. BAALI El Houssainは同大学農業機械学部教授。Mr. RAMAH Mohamedは普及所所長。Mr. BAKKI Mustaphaはメクネス農業技術研修所技官。Mr. BADISS MahamoudはCQA(農業品質センター)の研修指導官である。今年度の研修員4名は、ともに英語が理解でき講義、実習、実験共にコミュニケーションが十分であり成果ある研修でした。

外部講師及び研修旅行での理解はフランス語通訳が同行しフランス語を介して実施したためにコミュニケーションは十分達成されました。特に、試作実習並びに実験等ワークショップでの作業は作業補助員(川上農場職員)共、工作機械作業分野等においても言葉の壁を越えて作業を行える事もあり問題なく進めることが出来ました。なお、試作実習・実験中に事故も起きず、無事に研修を終了する事が出来たことは良かったと思っています。モロッコに対する農業関係の日本政府(JICA)の開発協力は、モロッコ農業漁業省を通して、2000年から2005年まで同省ハッサンII世農獣医大学内農業機械化研修センター(CFMA)が実施する農業普及員等への農業機械研修コース設立と運営について支援した。プロジェクト名称「モロッコ王国農業機械化研修センタープロジェクト」(以下プロジェクト)は、農業機械に関する研修事業として利用維持管理技術、農業機械評価試験技術及び農業機械改良技術についての研修方法並びに技術移転に関する協力を行ってきた。プロジェクトは、カウンターパー

目次

1. はじめに
2. モロッコ国別研修“農業機械改良技術コース”
3. ブータン王国の自然環境(櫻井文海氏から)
4. ブータン王国での忘れられない人
5. タイ、タマサート大学との相互協力“覚え書き”締結
6. トルコでの国際ワークショップの開催

2. モロッコ国別研修(続き)

トへの技術移転（研修計画、各分野の技術協力への協力）並びに大学内にある農業機械ワークショップのスタッフ等へ農業機械に関する基礎的技術移転について行い、プロジェクトは、2005年に終了した。この度、JICAは本プロジェクト事業の中の農業機械開発改良に関する技術支援を行うべく、今般、農業漁業省は中小規模農家が期待する農業機械、農機具の改良・開発を目指し、中小規模農家に合った適正な農業機械の改良開発を次の課題に挙げており、我が国へ上記農業機械の改良技術について本邦研修による技術協力を要請してきた。今年度は4名の研修員を受け入れ技術研修を行った。なお、本国別研修は昨年度を含め3年間継続して行うこととしている。

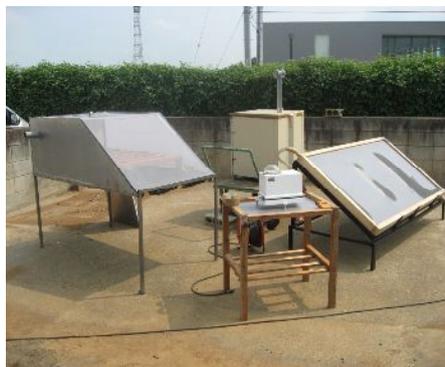
今年度本研修コースの目的は、前述した背景に基づき、中小規模農家へ普及可能で、同時にモロッコで改良・開発が望まれ、かつまた生産可能な農業機械の中から、モロッコ側からの要請に基づき「野菜・果物の太陽熱乾燥機」の開発技術についての研修を実施することとなった。ちなみに、昨年は「タマネギ移植機」の改良開発技術についての研修を実施した。モロッコ小規模農家に適合する経済的で且つまた簡易な太陽熱を利用した乾燥機の開発は、現在多くの輸入乾燥果物（例えば、干しぶどう、干しプラム、イチジク、乾燥唐辛子等）が市場に出回っているが、これらについて国内生産率を高め小規模農家の収入を増やし、且つ将来は輸出産業への足がかりにしたいとの意向である。モロッコでの野菜・果物の生産は国内消費より多くの生産がある年もあり、農家では余剰野菜・果物が処分される場合も多々あるた

めに、それらを乾燥し貯蔵性も高め、野菜・果物へ付加価値を付け販売する事により農家の収入増につなげることが出来る。今回試作した簡易な太陽熱利用乾燥機は、モロッコ国内で生産可能であり、今回の試作1号機を見本に、将来モロッコで開発し生産可能な簡易な乾燥機を製作することによって普及へ繋げて行くことを主な目的としている。

主な乾燥作物は、プラム、イチジク、アンズ、唐辛子、ブドウ等である。現在は、これら乾燥物は多くを輸入に頼っているのが現状である。この乾燥野菜・果物は、特にモロッコの伝統的な料理（タジン、クスクスなど）に使われ、非常に重要な食材である。乾燥野菜・果物では、その他にサフラン、バラ、なども含まれる。今後、乾燥トマトにも生産を増やしたい意向である。（辻本壽之）



モロッコの乾燥
果物
左から
プラム
イチジク
アンズ
ブドウ

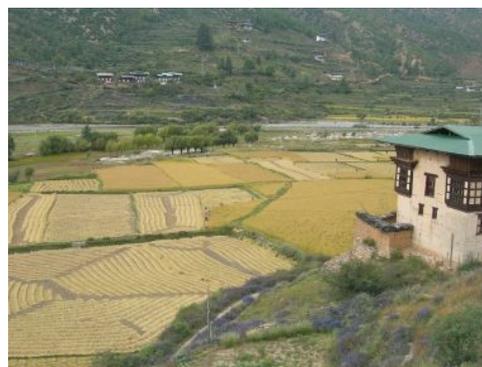


試作品
太陽熱直接乾燥機
（左側）及び
間接乾燥機
（右側）

3. ブータン王国の自然環境

ブータン王国はヒマラヤ山脈東端の南斜面に位置し、北の中国と南のインドに挟まれた形する小さな王国である。国土面積は3万8,394平方キロ、約63万4,982人の国民の大半が標高1,500～3,000メートルの土地図1&2を示すように暮らしながら農業を営んでいる。標高は、海拔約160m（南部インド国境地帯）から7000m（北部中国国境地帯）であり、国自体がヒマラヤ山脈の斜面にあるため、そのほとんどが山岳で、農耕居住に適している土地は全体の約5%である。気候的にはモンスーン気候帯に属するが、

大きく3つの気象地域に分けられ、南部山麓の高温多湿亜熱帯地域、寒冷内陸ヒマラヤ地域、及びツンドラ大ヒマラヤ地域となる。



水田地帯

3. ブータン王国の自然環境(続き)



畑の風景

ブータン王国では、就業人口の約70%が農業に従事しており、農業は同国経済の重要な基盤となっている。しかしながら、同国は、険しい地勢のため耕作面積が狭隘であり、既存の耕地においても段々畑や棚田が多いなど必ずしも農業に適していない。さらに、労働力が不足しているにもかかわらず、生産性の低い伝統的農法に依存しているため、主食である米の自給率が6~7割程度に留まるなど、農業生産性が停滞している状況にある。更に、農産物の流通システムが不完備であるので、農民は週末に地域用野菜市場まで農産物を運搬し、その時の決められた価格で購入を行うなど従来通りです。(櫻井文海)



棚田の風景



週末の野菜市場

4. ブータン王国での忘れられない人

西岡京治氏さんは1964年、コロンボ・プラン派遣の農業・園芸作物専門家として、ブータンに入国され、1992年に現地で亡くなるまでの28年間にブータンの農業分野の発展を貢献しました。西岡専門家は、まず農家に対し心を開き対話することから始めました。そして、パロの実験農場を拠点に、ブータンで高収量が期待できる日本の米品種の導入、普及や、換金作物であるリンゴ、アスパラガス等の栽培技術指導を行い、近代農法に対する農民の意識変革を促すこと共に、日本の無償資金協力を利用した農業機械センターや、種苗センター等の整備、食糧増産援助(2KR)を通じた農業機械の導入に道を開きました。

ブータンの第四代目王国、ジグミ・セング・ワンチュック陛下は、1980年、西岡氏にブータンで最高の榮譽である「ダショー」の称号を授与されました。



(注：ダショーは通常各省次官、県知事級の者に授与される称号) 現在でも、すべてのブータン人の心の中で、西岡氏は「ダショー・ニシオカ」として永久に記憶され、生き続けています。

(櫻井文海)

「ダショー」の称号を授与された時。ブータンの正装で



ブータンの第四代目王国ジグミ・セング・ワン
チュック陛下及びダショー西岡

6. トルコでの国際ワークショップの開催

平成20年9月トルコにおいて国際ワークショップが開催され伊藤信孝会長が参加した。現地新聞にも載り盛会であった。



本NPOの活動に賛同して
くれる人の会員募集！連
絡は下記まで・・・

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク(IFPaT)

319-0315 水戸市内原町1039-2

辻本壽之(Dr.Toshiyuki Tsujimoto)

電話 FAX 兼用

029(259)3720

Email: tsujimotoshi3@white.plala.or.jp

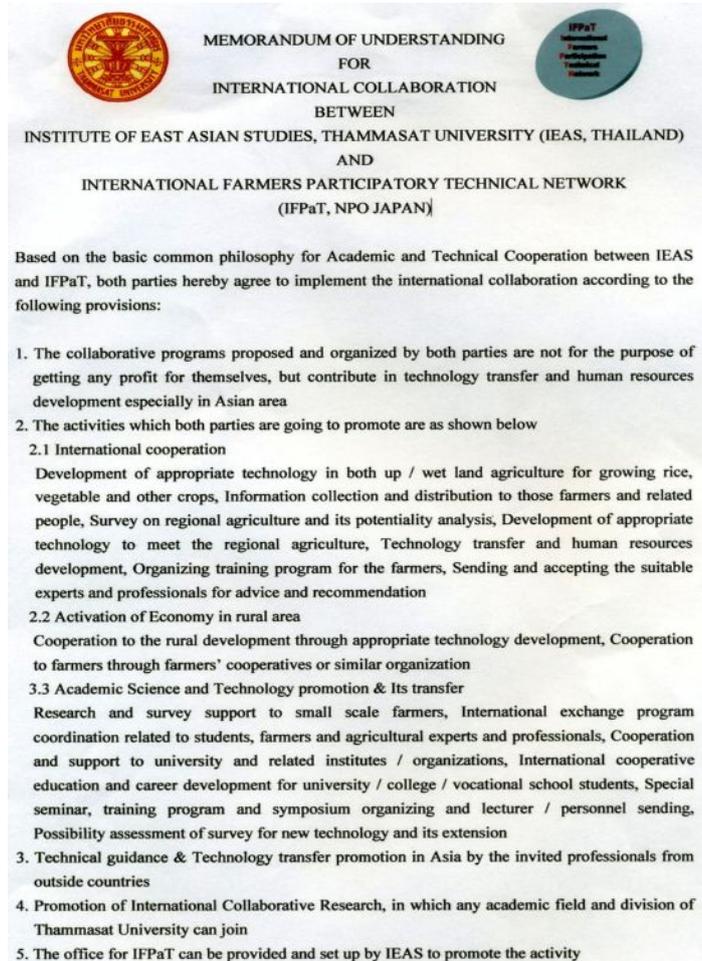


IFPaT 国際農民参加型技術ネットワーク

農民参加なくして農業なし！

5. タイ、タマサート大学（東アジア研究所）との相互協力“覚え書き”

本NPO（会長伊藤信孝）とタイ、タマサート大学との相互協力“覚え書き”を締結しました。今後具体的なタイ国との協力が実施されることを期待してください。



04/ 08/ 2008, Month / Date / Year

04/ 08/ 2008, Month / Date / Year

SOMCHAI CHAKHATRAKAN, Ph.D.
Director
Institute of East Asian Studies
Thammasat University

NOBUTAKA ITO, Ph.D.
President
International Farmers Participatory
Technical Network

